

平成 28 年 2 月 26 日

調 査・研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名：大志の会

報告者：赤木忠徳 ㊞

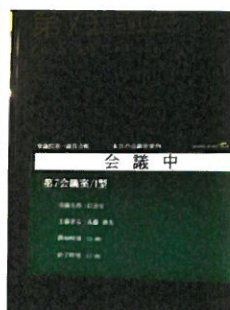
実施場所：総務省

地方創生等 28 年度 庄原に適した施策を学ぶ

実施日：平成 28 年 2 月 18 日

目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）

総務省にて、総務省大臣官房山崎俊巳会計課長を初め 4 名の課長補佐から、28 年度総務省所管予算の概要を学んだ。庄原市も超高速通信網も構築されようとしているが、特に行政の ICT 化、地方創生に資する新たなテレワーク（ふるさとテレワーク）の推進、安心安全な ICT 利用環境の整備等、総務省が目指している姿を聞いた。企業・人材移転 4 万人増加。地方のオフィスに、都市部の企業が社員を派遣し、本社機能の一部業務をテレワークで行う（ふるさとオフィス）、ふるさと勤務、ふるさと起業、ふるさと採用に 7.2 億円の予算。観光・防災 Wi-Fi 環境の整備公衆無線 LAN15.6 億。医療介護・教育の利活用。安心安全な ICT 利用環境の整備など喉から手が出る予算が目白押しであった。



ふるさと納税に消極的な庄原市は、総務省の思いを深く理解すべきである。商品券など換金性のお土産を出していることなどに、改善を求めたのであって、この制度をしばらくは継続する意向であった。

■参考とすべき事項

地方への移住・交流の推進イベントなどに利用出来る「移住・交流情報カーデン」が 27 年 3 月にオープンしている。素早い対応をしている地域は、すでに大いに利用している。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

情報は、常に中央にあり！！年に 1 度は課長・部長は東京出張すべきであるし、職員を常駐させるべきであろう。三次市は、広島県東京事務所に外向させている。セキュリティなど専門性に特化したことについては、中国総合通信局に積極的にアドバイザー制度の利用など相談をして欲しいと言われた。大いに、積極的に活用すべきである。ふるさと納税制度を積極的に活用するよう再度執行者に提言したい。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調 査 ・ 研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名：大志の会

報告者：赤木忠徳 ㊦

実施場所： J A伊豆の国 失敗しない就農ガイド、新規就農者の 7 割が農業だけでは生活ができてないなか生産高 1500 万円を獲得する極意を学ぶ	実施日：平成 28 年 2 月 19 日
目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） 農家人口が減少している中、静岡県では全国に先駆けて新規就農支援に取り組んでいる。16 年から 26 年の 10 年間で、新規就農者 148 名中 127 名が研修後定着している。しかも 7 割が年収 500 万円の収入を確保しているというから驚きである。その極意を前営農販売部長から学んだ。	
<div data-bbox="164 721 539 999" data-label="Image"> </div> <p>第 42 回農業賞を受賞された J A伊豆の国の大田静夫さんは元営農指導部長であり、現在も営農販売課で指導を継続中でありました。当日、他の会議があったにも関わらず、午前中に変更し研修を受け入れて戴いた。</p>	
■参考とすべき事項 受入農家の鈴木さんは、あらゆる作物に挑戦し、土壌分析など近代的な農業をしてきたが、平成 5 年から収穫性の高いミニトマトに特化し経営し、栽培技術が高い。この様な農家の下で研修出来る。研修後に独立するに当たっては、12 年間の就農計画収支目標を立てさせ、農業を経営として考えさせている。収穫性の高いミニトマトであるが、10a10 万円で農地を借り入れているから、生育不良など、相談出来る受入農家の近くで就農している。行政・J Aなど、地域として新規就農者を受け入れている。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） 受入農家に対して 60 万円の謝礼制度を県・伊豆の国市で制定している。就農計画作成支援・就農支援資金計画支援と県の対応・農地利用集積円滑事業による借地契約の締結・労働力確保に無料職業紹介所による農作業パート者の紹介・営農指導・出荷販売・ニューファーマー地域連絡会など J Aの役割は高い。県・市・J A一体化した支援策を目指すべきである。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調 査・研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名：大志の会

報告者：赤木忠徳 ㊦

実施場所： 岡沢独立就農者

失敗しない就農ガイド、新規就農者の 7 割が農業だけでは生活ができてないなか生産高 1500 万円を獲得する極意を学ぶ

実施日：平成 28 年 2 月 19 日**目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）**

新規就農者岡沢さんは、東京生まれ東京育ち、東京八王子の商工会議所の経営指導員からの転職者である。農業経営を目指して全国各地を周り、伊豆の国市に定めて 1 年間の研修に入った。すでに結婚しお子さんも生まれていたが、奥さんを説得し協同経営者となった。20 アールに 4 棟のハウスを建て、9 月に苗を定植し 10 月半ばから 7 月中旬まで出荷。ピークは 5 月であるが、研修当日は、5 月と同量の収穫であるため、午後までパートさんが忙しく出荷作業をされていた。

**■参考とすべき事項**

計画収支を立てた上での経営であるため、返済期間が短縮出来そうとの事、やはり農業経営計画は重要である。生育不良や病気など研修先農家や同僚に相談出来る事は重要である。

研修制度導入後 3 年の平成 18 年には既存農家の出荷額を超えた。技術力が高い。ミニトマト・イチゴは労働生産性が高く、高収益作目であるため、雇用型農業生産が可能である。

受入農家鈴木さんは希望者と面談し、作物がどのくらい好きかなどを中心に、農業に適性があるか厳しい目で見抜き、合格率は良い時で 50%、厳しい時で 20% である。適正者を厳選している。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

新しい農業、経営感覚のある農業を目指すニューファーマーが多くなれば、出荷量も増し、市場独占力も高まる。従来型農業から、新規就農者、新感覚就農者の農業経営を目指す研修制度を創設することが必要である。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調 査・研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名：大志の会

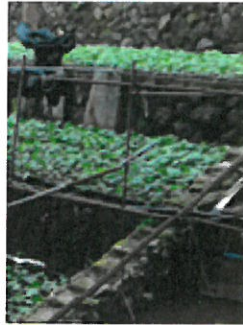
報告者：赤木忠徳 ㊞

実施場所：わさび栽培農家

世界的に日本食ブームでわさび不足が続く中、
わさび栽培の極意を学ぶ

実施日：平成 28 年 2 月 20 日

目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）



天城山ろくのみもとである天城地区と中伊豆地区では、「畳石(たたみいし)式」ワサビ沢による栽培方法で生産され、1年を通して栽培・収穫されている。「畳石(たたみいし)式」とは、明治25年ごろに同地で開発された。地盤を深く掘り下げ、わさび田の土は、下から「石」・「砂利」・「砂」の三層からなり、水は砂の表面を流れながら、土中の層を通り、水抜き穴からも下段の田へ流れ出るようになっており、わさびは、たっぷりの水中酸素を得て元気に育つ。良いわさびが育つ条件は、森林が多く、気温の変化は穏やかで、水温は、夏は冷たく冬は暖かく感じられる13℃～15℃前後が適し、アマゴやヤマメが棲むぐらい澄んだ豊富な水量が必要だと言われている。収穫は、植え付けから約1年後、高さ約60センチに育ったものを引き抜くことから始まる。すり下ろしてすしや刺身に添えるのは、地元で「いも」と呼ぶ根茎の部分だが、細長い茎もワサビ漬の原料として出荷される。根はワサビみそ、葉は天ぷらなどと、あれこれ利用できる作物だ。

■参考とすべき事項

わさびは1に水、2に苗、そして3に管理が大切。放っておくとクレソンなんか大量に発生して、ワサビの根茎の成長が妨げられる。

日当りによって収穫するタイミングをずらし、常に一定の品質を保っているとのこと。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

庄原市でも、各地で細々とわさび栽培をしているが、沢に直接定着する方法をとっている。しかも、鉄分の多い湧き水が多く良質なわさびが多く収穫されていないが、高収益性の高い作物であるため、県大等と協同研究することは、重要と考える。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名：大志の会

報告者：門脇俊照

実施場所：衆議院第一会館

実施日：平成28年2月18日

■目的・課題・問題事項(調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など)

普通交付税が28年に10億円、5年後には19億円減額が示されている。28年の減額がボデイブローになり5年先に完全ダウンとなる可能性が心配になり、総務省の大臣官房・会計課長の山崎さん他4名の総務省職員からレクチャーを受け、本市の課題について質問しました。

レクチャー時には公明党、衆議院議員の斉藤鉄夫さん、参議院議員、山本博司さんも同席されました。

■参考とすべき事項

平成28年度総務省所管予算の概要から

- 新たなイノベーションを創出する社会全体のICT化の推進
- 4K・8Kの推進
- 地方自治体における行政サービスのオープン化・アウトソーシングの推進
- 教育分野へのITCの利活用による人材育成
- 地方創生に資する新たなテレワークの推進

中でも本市に直接関係し予算要望できそうな事項

- 移住・交流ガーデンの充実など地方への移住・交流の推進
- 地域のITC基盤整備(ブロードバンド・モバイル・WI-FI等)
- 携帯電話がつながらない地域における整備の推進
- WI-FI環境の整備

以上のように探せば本市にも適用できそうな予算も多くありました。

■提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきか など)

今回、最重要で総務省に聞きたいことは「ふるさと納税」。

総務省の見解は「ふるさと納税」は一極集中の緩和、地方の元気創生を促すため、これからも「ふるさと納税」は続けると職員全員が言われました。

交付金減額のダメージを軽くするために何が出来るか執行者、議会も一つになり取り組まなければならない事案です。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名：大志の会

報告者：門脇俊照 ㊟

実施場所：静岡県伊豆の国市 JA 伊豆の国

実施日：平成28年2月19日

■目的・課題・問題事項(調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など)

農業後継者の育成、農業による移住・定住、新規就農者支援の取り組みについて研修しました。

■参考とすべき事項

静岡県では「がんばる新農業人支援事業」として全国から新規就農希望者を募集し、受け入れ農家の現地説明見学会を行い、面接選考会をおこなう。

選考会の受け入れ条件。

- ① 健康で就農への強い意欲と旺盛な研究心があること。
- ② ある程度の自己資金があること。③夫婦で協力・就農し家族の理解が得られる者。
- ③ 研修先の近くに就農できる者。 ⑤経営能力のある者。
- ⑥おおむね40歳以下であるもの(45歳くらい)

研修決定者は地域受け入れ連絡会が就農希望者を就農に向け、一年間の実践研修や就農準備等の総合的支援を実施し、地域の担い手を育成する。受け入れ農家には50万円が支払われる。

○これまで148名が研修し127名が就農されています。

■提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきか など)

就農継続率が高い理由

- ① 栽培技術が高い受け入れ農家の下で研修出来ること。
- ② 受け入れ農家が農業を経営として考えられること。
- ③ 受け入れ農家の近くで就農していること。
- ④ 地域として新規就農者を受け入れていること。
- ⑤ 地域にあった経営可能な作物をつくること。(適地適作)
- ⑥ 諸条件の良い土地(日照・用排水・地力等)で就農。

研修後、新規就農者でミニトマト栽培をされている現場に行き話を聞きました。

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名：大志の会

報告者：門脇俊照 ㊦

実施場所：静岡県伊豆市

実施日：平成28年2月20日

■目的・課題・問題事項(調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など)

知人の商社マンから、「世界的な和食ブームで寿司や刺身が食され、ワサビ不足が深刻になっている。庄原市でワサビ栽培が出来ないか」問い合わせがありました。

本市でも、ワサビ栽培は行われているが小規模で行っているが大量は無理な状況。

本市でも農産物の特産品開発を模索していることから、ワサビ栽培の先進地、静岡県伊豆市へ行って来ました。

■参考とすべき事項

視察した中伊豆地区は、畳石式(たたみいし)ワサビ沢による栽培方法で生産され1年を通して栽培・収穫されています。

畳石式は、地盤を深く掘り下げ、大きな石から小さな石の順に敷き詰めて行き、表面に砂をのせる方法で作られるワサビ沢です。

ワサビの育つ条件は森林が多く、水温が夏は冷たく冬は暖かく感じられる13度～15度前後が適し、アマゴやヤマメが棲むぐらい澄んだ豊富な水量が必要と言われていますが、視察したワサビ田は標高が低く湧水も少なく、水温は夏17度～18度。冬は10度でワサビ産地の中では高めです。

栽培の主流は「株分け」だったが、現地では親株から種を取って苗床で育て「実生」で行われている。病気にかかりにくく、大量生産が可能になっていました。

道の駅にワサビ田を作り、ワサビ取りの体験や多くの土産品が並び観光のメインになっていました。

■提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきか など)

やる気になればどこでも栽培は可能。

私たちがチューブで使用しているワサビの中身は山ワサビ(西洋わさび)。

山わさび(ホーズラディッシュ)は明治時代に導入され、主に北海道などで栽培されている。

本わさびと違い鼻につんとくる辛さ、辛みが好まれているようです。

辛み大根は「すずしろ」と言い、そのまま食べても美味しく、おろせば辛くなり、福井県などでは、おろし蕎麦などワサビより主流になっています。

本市でも山や畑で栽培が出来る可能性は大で売り先が確保出来れば面白いと思います。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。